

2012 年度大阪教育大学男女共同参画推進事業 活動結果報告

**ジェンダーの視点から図工・美術（教育）の今日的課題を探る
～公共芸術、野外彫刻を基軸として～**

美術教育講座 加藤 可奈衛（申請代表者）

事業の目的

社会や学校における図工・美術（教育）の役割を考え、美術の多様な表現活動がジェンダーや人権問題にかかわっていることを本事業の中で探っていきたい。また、図工・美術（教育）においてジェンダーの視点で実践活動を見たとき、どのような今日的課題があるのかを知ることを目的とする。

方法としては、公共芸術、野外彫刻を中心にジェンダーとのかかわりについて、先行研究事例を参考に検証し、また、身近な小中学校での美術教育の場においてジェンダーや人権問題を扱った事例調査や聞き取りを行い、今日的な課題を探っていきたい。

成果概略

本事業では、主に中学校現場での「美術と人権」に関わったジェンダーの視点での実践事例の聞き取りを行い、美術と人権のかかわり方の事例から美術科教員の人権（広義でのジェンダーの視点）への熱い思いを知ることができた。

調査をおこなった中学校での教育的効果の要因は、美術科教員の熱意や指導力の高さとともに、学校全体の人権教育の意識の高さが抜きにできないと思われた。

また、ジェンダーについての解釈は、福島大学行政政策学類高橋準准教授（社会学者）とのディスカッションの中でも、単に性の問題だけではなく、柔軟に考えて良いことが確認できた。美術の制作などの実践で「解放していくイメージ」を筆者はもつが、それも大きな意味ではジェンダー的視点と言ってよいとの指摘も得られたことから、美術領域での活動は「ジェンダー的解放」などという言い方も可能かもしれない。飛躍を恐れずにいうならば、筆者自身の美術制作者としての活動、また、教育大学における教育研究活動もこれに準ずると考えられる。

それに加え、現代美術作家でもあり解剖学の見識も高い実践家で福島大学人間発達文化学類渡邊晃一准教授からの助言では、身体性とジェンダーについての解剖学的な視点での解釈を伺うことが出来、非常に興味深い内容であるため、今後さらに継続して学んでみたい。

ジェンダー問題と野外彫刻（公共芸術）については、特に前出の高橋準准教授と直接面会し、美術領域ではない立場（社会学等）から、実際の福島市における公共芸術に関して、ジェンダーの視点として調査研究した観点から広い視点で議論させていただけたことは、大きな成果である。残念ながら現在は当該の市民フォーラムや、千葉大学での活動などは継続していないということで、その後の状況までは知ることが出来ていないが、現在の社会的諸問題（特に地域のつながり問題など）に対して、改めて市民目線での検証、問題意識は少なくない意味をもつであろう。震災、環境問題など、大きな問題と直面する今、「ジェンダーの視点」を意識しつつ「野外彫刻および公共芸術」の抱える問題を考えていくことは、個から普遍性の問題を意識させ、大げさではなく私たちの抱える今日的問題を解決していく糸口ともなる。

まだ今回は不十分であったが、聞き取り、現場取材、文献などより全国の事例や状況を

調査することで検証していくことが必要と感じている。

美術における授業「造形表現 BⅡ・Ⅲ（旧造形表現 B）」で数年来パブリックアートを課題として制作を実践してきたが、今回、授業の機会に、ジェンダーと野外彫刻について受講学生たちと討議を試みた。その結果、制作場面では見ることができない学生の美術に対する考え方の見直しや他者理解にもつながる取り組みとなったように思う。（学生の発言、ワークシートより）学生の多くは、これまでほとんどジェンダーのことについて考える機会が乏しかったようだ。関わった機会があったとしても、今回改めて、自分たちの専攻している「美術」にとっても非常に関わりの深い問題であることを自覚できたようだ。このことから、今後の美術科での授業や、研究制作において「美術（教育）とジェンダー」、「ジェンダーの視点で美術を考える」というような視点を導入することができれば、より広がりのある美術教育や美術制作などの実践が可能となり、美術領域の可能性を提示できるのではないかと考える。

倉敷市清心女子高等学校生物教室、主任秋山繁治教諭訪問では、授業「生命」におけるユニークなカリキュラム（野外彫刻やジェンダーを取り扱った授業が含まれる）の実践に関して、生物学者の立場から非常にユニークで参考になるお話を伺えた。高等学校においての実践であるが、いわゆるサイエンスの立場からのみ「生命」を捉えるのではなく、とても広い視点での教育実践として示唆に富み、大変貴重な事例である。

今回、大学の教員を中心に、ジェンダーの視点での実践について聞き取りを行ったことで、この問題について潜在的な意識はあるものの、研究対象として扱った（扱っている）研究者以外は、とくに意識していないなどといったニュートラルな感じを受けた。（「意識していない」のではなく、美術表現の多くは、鑑賞者の意識次第で、この問題についても感じたり考えたりすることのできる表現となっている。つまり、多くの表現者は無意識のうちにこの問題をも、考えているということができるのではないか。）

今後に向けて

今、いじめや体罰等の問題が浮上し、学校現場ではこれらの問題を解決することが緊急課題となっている。今こそ、学校は子どもたちに学力を育成するとともに、様々な現代的な課題に立ち向かうたくましい力や人と人とのよりよい関係性を築くために、豊かな感性と創造力が不可欠であることはいままでもない。このような子どもたちの豊かな感性や創造力の育成は、図工・美術教育の大きな使命であり、本事業の目的であるジェンダーや人権問題と美術のかかわりを探ることが、学校現場で抱える様々な課題に対して、ある種の問題意識の一石を投じることが期待されると考える。同時に、将来教育現場（特に美術教育をベースとして）を支えることになる学生たち、及び指導側の大学スタッフの双方の意識啓発を促す効果が期待できると思われる。

さらに、この問題は、特に美術領域の持つ特有の力（領域横断的など）を発揮できると考える。美術制作者（表現者）としてニュートラルな感じを受けたと述べたが、美術表現（とくに作品制作）においては、このニュートラルな感覚を積極的な意味で解釈していくことが、美術領域のもつ可能性として重要ではないかと考える。

ジェンダーや派生した人権問題等と関わる美術の実践事例を多様な視点で調査し、これを契機とすれば、個人的から普遍的な意味を持つ研究活動となるだろう。より積極的にアプローチをすることによって、学生教育充実や社会貢献の一端を担うことが出来ると考える。

別表：実施報告

日時	対象と場所など	内容
平成24年12月17日、 平成24年1月7日	授業「造形表現BⅡ・Ⅲ」での取 組み（2回生約20名対象）大阪 教育大学F棟106教室他 実地指導講師：岡田陽子氏（河南 町立白木小学校教頭、現同町立近 つ飛鳥小学校校長）	公共芸術（パブリックアート）をテーマにし た授業課題を通じ本テーマに関して検証 「野外彫刻とジェンダーについて」 実地指導講師（岡田陽子氏）との共同授業。 主に以下の3点について討議会 1. 野外彫刻とジェンダーとの関係を考える。 2. 彫刻制作と女性モデルについて考える。 3. 関連して美術と教員志望について考える。
平成25年1月25日	白樫雅洋氏（元松原市立松原第六 中学校校長、現松原市教育アドバ イザー）、梅田佐江子氏（元狭山 市立第二中学校美術教員）、岡田陽 子氏（前掲）	美術教育とジェンダーについて実践者から聞 き取り 1. 松原市立第三中学校美術科の授業実践（人 権を柱とした美術の授業）から ・ケーテコルビッツ、ゲルニカ、丸木俊・ 位里から学ぶ。 ・障害のある生徒と共に、被差別部落で生 きる…など仲間と生きる共同制作につい て。 2. 『美しいってなんだろう』（森村泰昌著）を 参考に、芸術における「美しさ」の理解と 共感の違い、モナリザや、作家フリーダ・ カロについてなどの自画像の違いなど。
平成25年2月1日	松原市立第三中学校の美術実践 見学、対応：学校長および教科担 当教諭 コーディネイト（前掲：白樫雅洋 氏）	中学校教員への人権教育を通じた共同制作授 業についての聞き取り、及び学内参考作品に よる学校空間演出への想いをうかがう。ジェ ンダーから人権問題への展開実践事例につい て協議。
平成25年2月8日	松原市布忍神社にて、「現代美術 作家等による絵馬展」見学鑑賞お よびレクチャー（宮司、寺内成仁 氏）、コーディネイト、白樫雅洋 氏（前出）	神社という空間×現代アートのコラボによる 視点の変換。神社という非日常空間で、現代 アートがメディウムとなり、立場、個・普遍 性などに関連するジェンダー的な広くとらえ る視点の発生に関してレクチャー。
平成25年2月28日	福島大学行政政策学類高橋準准 教授、福島大学人間発達文化学類 渡邊晃一准教授訪問	社会学者の立場から実際にジェンダー問題に ついての提言された論文に関して質疑応答、 現代美術作家及び美術解剖学的立場からの幅 広い論考などを伺い、各専門家から現場にお ける現状などについて伺う。
平成25年3月13日 ~14日	岡山県倉敷市清心女子高等学校 生物教室秋山繁治教諭訪問 尾道市立大学美術学科訪問、対 応；日本画コース中村譲准教授	高校の総合カリキュラムでの実践例につい ての実践について取材させていただき現場教 育での実践における成果課題などについてレク チャーを受ける。また、大学の美術学科にお ける主に制作表現研究者及び学生、学生教育 でのジェンダー意識の状況について聞き取 り。